

ご挨拶

「人を中心としたオートメーション」の探求

アズビル株式会社
代表取締役社長

曾瀬 寛純



当社は、2012年4月にアズビル株式会社に社名を変更し、またグループ各社社名もアズビルを冠したものに統一いたしました。これは2006年、創業100周年を機に制定した企業理念「人を中心としたオートメーション」についての展開を一層加速し、名実ともに「人を中心としたオートメーション」を推進する企業となることを意思表示するという意味でもあります。

オートメーションは、50～60年前に国内外で本格的に産業化が進み、学問として体系化された技術分野です。オートメーション（計測制御）の原点は生体の均衡の仕組み（サイバネティクス）に大なる影響を受けてスタートしました。産業分野では、技術によって人間を非人間的な作業から解放し、近代的な生産現場を実現するために利用され、産業の成長に大いに貢献しました。1980～90年代にかけては、マイクロプロセッサベースの技術革新が計測と制御の大規模システム化を可能にし、工場・プラント制御の分野ではあらゆる産業で利用され、集約化運転に向かいました。ビルシステムの分野でも同様に集中監視が進められました。一方で、遠隔監視になりオペレーター一人当たりの守備範囲が拡大したことで、現場で起こっていることの全てがシステムを通じて把握できない、多発するアラームへ少人数で対応できないなどの、人とシステムとの調和の課題が拡大しました。

21世紀に入ると、医療や生活の分野への計測制御の応用が拡がり、産業分野においては人とシステムとの調和の課題の認識やその対応の研究も進みました。2010年に計測自動制御学会は50周年誌のなかで、将来に向けて（1）人と機械・システムの協調・協業の重要性、（2）横断的な技術としてのオートメーションの価値・重要性を強調しています。

アズビル株式会社は、創業者山口武彦の「苦役からの解放」という精神のもと、1906年に山武商会として創業しました。以来、当社は「『人』のための『技術』」を探求し、社会に貢献する」というDNAを受け継ぎ、メーカーとして、またコンサルティングからエンジニアリング、施工、サービスまでライフサイクルでソリューションを提供する企業として成長して参りました。

2013年1月には、当社藤沢テクノセンター（神奈川県藤沢市）に、「山武記念館」を設立し、創業者とその精神、ビルディングオートメーション事業、アドバンスオートメーション事業、ライフオートメーション事業分野での技術、製品を中心に、オートメーションの歴史と社会・人とのかかわりを展示しています。社員だけでなく、広くオートメーション技術やその応用に関心のある技術者、地域の皆さまにもご利用いただけますと幸いです。

azbilグループは、建物分野のビルディングオートメーション（BA）、産業分野のアドバンスオートメーション（AA）および生活・生命の分野のライフオートメーション（LA）を3つの事業として位置づけ、「人を中心とした」の発想でオートメーション事業を展開しています。

新生アズビル株式会社としてスタートした2012年度からは、（1）技術や製品を基盤に、ソリューション展開で顧客・社会の長期パートナーへ、（2）地域拡大と質的な転換でグローバルな展開を加速する、（3）環境に適應できる学習する企業体に進化する、を3つの重点施策とし、企業運営を進めています。

具体的には、お客さまからの多様なご要望にお応えするため、エネルギー管理ソリューション（ENEOPT）、品質管理や生産性、安心・安全および快適性に関わる技術とソリューションをBA/AA/LAの3事業を横断して提供するための整備を進めています。

また、中国での環境・エネルギー管理事業の展開、中東におけるサービス・生産の強化を目的に新たなJVの設立、アドバンスオートメーション分野の事業強化とライフサイエンス分野のビジネス領域の開拓、拡大のために、国内外の会社をグループ企業化するなど、azbilグループのグローバル展開を加速しています。

さらに、3つの重点施策を実現できる人材を育てるため、社内教育機関「アズビル・アカデミー」を設立し、お客さまに提供するサービスや技術の強化をグループで総合的に進めています。

どうぞ、azbilグループの新たな挑戦を応援していただき、今後ともお客さまの事業や生活の新たな展開にazbilグループをご活用いただけるよう切にお願いいたします。